

第4回九州ブロック青年ユネスコ交流研修会報告書

文責：佐藤隆士(大分ユネスコユース)

1：はじめに

九州ブロックにおける青年同士の交流と、それに伴う活動の活性化を目的として実施しました。まず初めに、九州内外の多くの方々のお力添えと、参加者の皆様のご協力により成功を修めることができたことを感謝致します。

2012年初頭に久留米にて会議を行い、九州全体を盛り上げるための施策として本会を行うことが決定し、今回は高校生や点在する青年たちが一堂に会する場に集まることで交流する機会を持ち、学びを深めると共に自らの所属先にて活かす事ができるような会を目的と決めました。

スケジュールや運営面での費用問題など多くの問題は発生しましたが、多くの方にご参加いただき、非常に有意義な時間を作り上げることができたと考えています。

また、参加者についても青年たちだけに区切るのではなく、今年度行われた鹿児島ブロック大会での呼びかけにより沖縄の青年との交流や、青年の参加が難しい地域からも大人会員の積極的なご参加を頂きました。

また、ホームページ掲載等のネットワークを通じて九州の枠を越えて山口、奈良といった遠方からの参加者もあり、地域、年齢共に広い範囲での交流ができました。

このような活動を定期的に行うことは今後のユネスコ活動の発展と、活動を行っていく全員の結束力強化の一助となることができるという確信と共に、本会のご報告をさせていただきます。

2：イベント概要

2012/12/08(土)～2012/12/09(日)の日程にて下記プログラムを実施しました。

2012/12/08(土)	
13:00	開会式
13:15	基調講演 講師：足利由紀子氏(NPO 法人水辺に遊ぶ会 理事長) ～中津干潟及び水辺の環境問題について
15:00	ユネスコスクール発表 高水高校～岩国ユネスコ協会有志による発表
15:20	アイスブレイク
15:50	ワークショップ 講師：松浦慎氏(奈良ユネスコ協会) ～レクリエーションとユネスコ活動について
17:00	プログラム終了
18:30	懇親会
2012/12/09(日)	
09:00	異文化理解ワークショップ ～県内留学生との交流会
11:30	閉会式

会場：12/08(土)・・・豊泉荘(別府市青山町 5-73) / 12/09(日)・・・PlatForm(別府市元町 8-3)

参加者の内訳は右表のようになりました。

幅広い層からの参加者が集まること実りのある交流を行う事ができました。

年齢	男性	女性	
19歳以下	4	12	
20～29	2	2	
30～40	1	3	
40歳以上	4	2	計
合計	11	19	30

3：詳細報告

3-1：基調講演について

日本ユネスコ協会連盟の事業である未来遺産運動にて認定された中津干潟にて活動を行っているNPO 法人水辺に遊ぶ会の理事長である足利由紀子氏をお招きし、基調講演をしていただきました。実際に中津の干潟に生息する多様な生物の生態を実際に見せながらの紹介を行い、干潟についての知識を得ると同時に、海洋問題や環境汚染、漂着ごみの問題等についてお話をしていただきました。干潟とはなにかということ自体に触れることが初めてという参加者も多く新鮮さを得る方や、昔はもっと干潟が多かったということから懐かしさを感じる方もあり、それぞれの感動を得ることができた講演会となりました。

参加者の感想(抜粋)

- ・干潟についての講演で、タコ・エビの消費大国が日本ということを知ってびっくりしました。海にいる生物のためにもゴミを捨てないように呼びかけたいです。
- ・生徒の目線に立った、とても分かりやすい講演でした。臼杵にもビーチが多いので、(ビーチ)クリーン活動、環境保護活動への意欲が増したと思います。
- ・大分の干潟のことを話していただいて、クジラの骨とか貝とか見せていただいて、聴くのも面白かった。少し難しい話もあったけど、いろいろわかった。
- ・普段なら受けることのできないような講演を受けることができ、干潟のことについても知ることができたり、ユネスコに対する考え方が変わりました。
- ・私はあまり自然と接することが少なかったなので、自然にはどんな力があるのか、私たちがこれからすべきことはなんなのかよく分かりました。
- ・とても興味深くておもしろかったです。大分の海や干潟に始まりミッドウェー島の話が印象的でした。ゴミ問題の深刻さを痛感。
- ・地元のことだったけど、あまり知らないことが多くあって、改めてゴミの問題のことを深く知れてよかったです。
- ・海洋(干潟)の汚染の実例を紹介していただき、自然環境の保全の大切さを痛感させられました。
- ・海について学べると同時に、大分県についても知れたので楽しかったです。



3-2: ユネスコスクールの発表について

学校法人高水学園 高水高等学校の生徒二名(岩国ユネスコ協会所属)によるプレゼンテーションを行いました。

- ・山口県の紹介
- ・岩国ユネスコ協会の中での高校部としての活動を紹介
 - ⇒ボランティア活動を長年にわたる伝統行事として行ってきたこと
 - ⇒高校生同士が討論する機会を設け、相互理解と広い範囲での仲間作りを行っていること
 - ⇒スタディツアーや高校生の主張コンクールなどにも積極的に参加していること
- ・今年行われた全国子どもキャンプについて
 - ⇒若い世代の活性化につなげた…主体となる青年部に人がいない問題
 - ⇒人を集めることからスタートし、参加者全員がユネスコに定着するまでになった
 - …キャンプに参加したことをきっかけに青年部に加入してくれるひともいた
- ・高水高校がユネスコスクールに認定されたことの紹介
 - ⇒里山再生事業を行い、地域の人たちと子どもたちに里山を再生することを目標に掲げている
 - ⇒全員で一緒にビオトープ作りに励んでいること
 - ⇒植樹と環境教育にも力を入れていること

高校生や青年部が主体となり、さまざまな活動に取り組んでいることが伝わり、それぞれの地域で活動人口不足などの問題を抱えながら活動している青年たちにとっても親しみやすい活動事例として非常に興味深い内容でした。



3-3: ワークショップについて

奈良県ユネスコ協会所属の松浦慎氏をお招きし、ユネスコの基本学習と、レクリエーションを通じての交流を行いました。

3-3-1: 人間ビンゴ

用紙に書かれた項目に沿ってペアを作ったのじゃんけんゲームを行いました。

参加者同士がお互いのことを知り、短時間で仲間作りを行うための手法を学ぶことができました。



3-3-2: ユネスコについて

「ユネスコとユニセフの違いを魚釣りに例えると
ユニセフ…釣った魚を困っている人に直接与える
ユネスコ…困っている人に魚の釣り方を教える」

ユネスコ活動とは何か、ということを知る機会は普段の活動の中でおろそかになっている部分であり、世界寺子屋運動や識字教育についても募金活動には参加したことがあるけど実際にどういう風に使われているかわからないと言ったことが多々あります。



ユネスコの基本学習として日本の民間ユネスコ活動の仕組みと、その中で活動していく個人個人のあり方について自らが奈良で活動してきたことを事例として紹介し、「自然、文化、ひと」という三つのエッセンスを通じて自分たちの活動を行っていることを話しました。

レクリエーションを通じて「生きる喜び」を得て、自分のやりたいと思ったことが世界の誰かのためになっていく考え活動を行っている姿はとても力強い確信を与えました。

参加者の感想(抜粋)

- ・ユネスコとはどういうものかよく分かったし、私の知らないところでどんな活動を行っているのか知ることができ、これからもっと積極的にユネスコ部として活動したいと思いました。
- ・ユニセフとユネスコの違いを魚釣りに例えていて、とても分かりやすかったです。自分の好きなこととやりたいことを繋げて何かできたらいいと思いました。
- ・短い時間でわかりやすく、ユネスコについて知れてよかったし「ユネスコ」というものがどういうものなのか改めて考えることができ本当に良かったです。
- ・奈良ユネスコ協会の活動とそこにおける青年組織の位置づけ(全国的な)を分かりやすく紹介していただきました。
- ・自分がしているユネスコ活動について考えるきっかけになりました。人との出会いを大切にしたいです。
- ・ユネスコの事をより深く知る事ができ。ユネスコに対する関心が深まりました。
- ・わかりやすく、楽しかった。ユネスコの活動にもっと参加したくなった。

3-4: 異文化理解ワークショップについて

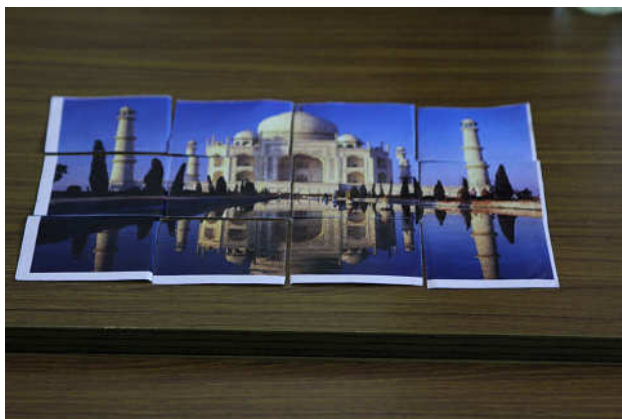
大分県に在住の外国人留学生との異文化交流を行いました。

中国、韓国、インドの三カ国からの参加となり、多種多様な文化について触れることができました。ワークショップには「レヌカの学び」を使用し、留学生それぞれが感じた異文化を、グループ単位で話しました。

レヌカの学びとはもともとはネパールの小学校の校長先生をしているレヌカさんが作った教材で、自身が日本に留学したとき感じた異文化をカードゲームにしたものです。

それぞれの国から見た視点と、日本に来て感じたことの視点で文化の違いをカードにし、参加者はそれがどちらの国の視点での事かを話し合い判断します。

今回参加の3カ国でも、それぞれに意外なところもあり、参加者同士どうしてこう感じたのか、判断するときには自分はどちらの視点で考えていたか、など、大いに盛り上がりました。



参加者の感想(抜粋)

- ・ 大体のことを分かっているつもりだったけど、本当にそれはただの「つもり」であり、知っているようで知らないことを詳しく知ることができてよかったし、貴重な体験ができて良かったです。
- ・ 留学生たちがそれぞれ日本のことか自分の国のことか書いたことをあてるのはおもしろかったし、留学生からみた日本と自国の比較の話がよかった。
- ・ アメリカやオーストラリアの人とは交流したことがあるけど、インドや韓国や中国は初めてで、いいお話もたくさん聴くことができ、良かったです。
- ・ 実際に留学生と接することで、今まで知らなかった外国の常識、文化の違いなどを具体的に知ることができました。世界観がまた広がりました。
- ・ それぞれの国で色んなことに対する意識が違ったりしていて不思議だと思いました。さまざまな国の文化などについて知りたいと思いました。
- ・ 外国の文化を知れて、とてもいい経験になりました。外国の文化を知ると同時に、日本の文化についても考え直すことができました。
- ・ 日本と他の国でこんなにも違いがあるということが改めてわかりました。色々な事柄の考え方も大きく違っていておもしろかったです。
- ・ 異文化を学んだことが大きいかと思います。私たちが普通にやっていることでも、違うんだなと思った。とてもいい体験でした。
- ・ 今まで知らなかったことをたくさん聞いて良かったです。日本との違いとか聞いて楽しかったし、いい経験になりました。
- ・ 外国について知るには、留学生からお話を伺うのがわかりやすいと思いました。もうちょっと長く交流したかったです。
- ・ インド、中国、韓国の人との違いみたいなのかそれぞれの国について教えてもらえた。
- ・ 外国の人との交流で、その国の文化が日本と随分と異なっていることが認識できました。
- ・ 意外な発見もあり、楽しくてよかった。「レヌカの学び」は学校でも使えそう。
- ・ 楽しくゲームを通じて、異文化についてふれていく事ができ良かったです。
- ・ 制服や習慣の違いなど、具体的な話が聞いてよかった。
- ・ 自分が思っていたものとは違った国風を感じられた。

4：おわりに

冒頭でも触れましたが、本会は九州ブロックにおける青年同士の交流と、それに伴う活動の活性化を目的として実施しました。

二日間の活動を通じてその目的に対する確かな手ごたえを得ることができました。

この手ごたえを受けて今後の課題に対して取り組んでいくことが必要であると感じます。

今後の課題とは、以下の二点と考えます

1：定期的に交流することのできる活動を作り上げていくこと

2：それぞれの地域で行っている普段の活動を活性化させていくこと

大きな活動を行うと一時的な盛り上がりを得ることはできますが、これを継続させることは難しく、草の根的に横のつながりを強化し、仲間作りと活動の継続及び発展を図っていく事が必要と感じます。すぐに効果が得られるものではないからこそ、継続していくための原動力となるものを模索し、それぞれが自らの事として考えるきっかけとなれたことを期待します。

以上

